

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワナビー槻木		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名ワナビー城南・槻木合わせた数	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者への伴走支援体制の充実していること。	・家庭での再現性のあるアドバイス。 ・学校や施設との連携調整、情報共有の充実。 ・解決策を急がず、まずは保護者の不安や葛藤を受け容れる「傾聴」をベースとした面談体制。 ・面談時に保護者が相談したい項目を整理できるよう限られた時間で深い話ができる環境を提供している。	・外部講師を招く、あるいは職員が資格を取得し、子どもとの関わり方を保護者と一緒に学ぶワークショップを定期開催する。 ・小学校卒業後や将来の進路を見据えて、現在の療育がどうつながっているかを可視化するロードマップを保護者と共有する。
2	・職員が案を出し、協議し、実行するまでの期間が短く、組織の柔軟性が高いこと。	・社員ミーティングや全体ミーティングの他にも気軽に職員同士が意見交換を行える雰囲気がある。 ・職員が提案した内容によって、子どもや保護者がどのように変化したかの事例を報告し合い共有化していること。	・職員が今の環境をどう感じているかを匿名で毎月アンケートし、不満や改善点をリアルタイムで吸い上げて即座に会議の議題にのせる。
3	・柔軟で充実した送迎サービスがあること。	・送迎時に職員間で引き継ぐ情報を定型化し、保護者にも「今日の様子」を簡潔に伝えられる仕組みにする。 ・「急な残業」や「突発的な予定変更」にも対応できるよう、共有できる運用体制があること。	・子ども達が帰りの車内で振り返る時間を設けて、達成感を持って家庭に帰れるように促す ・保護者が送迎者の現在地を把握できるシステム(または通知システム)を導入し、お迎えの心理的な不安を軽減する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ヒヤリハットの報告の少なさ。	・業務時間内での作成の困難さがあること。 ・報告することで自分のミスが露呈し、評価が下がると感じる心理的安全性の欠如感があること。 ・どこからが報告すべき事象なのか、スタッフ間で共通認識が持っていないこと。	・業務時間内に書面作成が行える時間を作る。 ・些細な気付きや報告に対し、チーム全体で評価・共有する仕組みを作り、報告自体をポジティブな行為と位置づける。 ・報告された事例をもとに「もしもの時にどう動くか」を話し合う場を短時間(5分程度)で定期開催し、改善のシードバックを可視化する。
2	・防犯面の質の向上。	・不審者の侵入や子供の飛び出しなど実際の緊急時を想定したシミュレーションが不足していること。 ・毎日同じ環境で過ごしている為、外部からの侵入リスクや死角に対する危機管理意識が薄いこと。 ・地域の不審者情報や防犯体制のアップデートが不足していること。	・防犯カメラの導入やセンサーライトの導入など物理的な対策を検討する。 ・定期的にスタッフ間や不審者役を交えたロールプレイングを行い、マニュアルが現場で機能するかを確認する。
3	・車両での送迎表作成の複雑さ(ルート、時間、経路の複雑さ、当日直前の変更など)	・特定のスタッフにしか組めない(暗黙知に依存している)ため、確認や修正に多大な時間がかかっていること。 ・保護者からの連絡、スタッフ間の伝達、送迎表への反映というプロセスがぶんどんでおり、工程が複雑化している。 ・Excelや紙での管理が中心でICTを利用した自動化・最適化の恩恵を受けていないこと。	・送迎専用ソフト導入の導入により、複雑な経路計算をデジタル化することで組める人員を増やす。 ・送迎専用アプリと連携させて運用し、送迎予約・変更を一元管理し、情報の反映漏れや確認コストを削減する。